

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



116 号

2014 年 5 月 30 日発行号

←植物と人々の博物館ロゴマーク。

春の活動も無事に終わることができました～。盛りだくさんの夏を迎えます～。

活動報告

その1 冒険学校「むらまつりキャンプ」 5.3～5.5(2泊3日)

参加者＋スタッフ総勢 60 名超え！小菅村で活動を開始してからちょうど 10 年が過ぎ、一番賑やかなキャンプとなりました。感想を中心にご報告します。写真は、本会のブログなどを見てくださいね！！

僕が小菅村のキャンプで一番たのしかった事は木と木の間にはってあるブランコで「アメイジング・スパイダーマン&タイタニック号の悲劇」という新技を作ったことです。これは、ブランコのすわる所にうででしがみつки、回転しながら、ブランコをし、最後に、体をピンとのばし、両手を広げ、「タイタニック号の・・・悲劇」とさけぶあぶなっかしい技です。いっしょにこの技を作った親友のけいすけと、しんさ員の点数できそったら、ふざけすぎて、石で足をうって、100 点まん点中 50 点になってしまいました。

こんどまた、けいすけと小菅村にこれたらブランコの技でさらなるあぶなっかさの高みを目指したいと思います。(佐口幸太郎くん 小5)

私は、不満な事など何もありませんでした。つまり、大満足です。あえていうならばテントで足がすごく冷えたこととブヨにさされたことです。しかし二つとも自己せきにんなので、まあしかたがないと思っているし、さむさを防ぐ方法や治りようもできるかぎりしてくれたのでうれしかったです。

みんなで食べたごはんも最高だったけれど一番楽しかったのは、お松焼きと源流祭りです。お松焼きは炎のはく力がすごく花火が大きくてきれいでした。源流祭りは、仲良くなった人達と出店を回ったのが楽しかったです。そんな日が全てすぎて家に帰ってきたときには仲良くなったたくさんの人達はいず、いつもの家ぞくがいてなんだかよく分からないふくざつな気持ちでわけもわからずないてしまいました。～(中略)～そして、私は最近まぐらに小菅村の絵はがきをおいてゆめのようなあの日を思いだせるようにしています。本当に本当にすごく楽しくて幸せな毎日だったその日がまたくるといいなと思っています。(久米那月さん 小5)



『光の粒々』 横山昌佳(まーしー)

光は美しい。

ことに、朝の6時から7時にかけて、川岸に差す光がキャンプ場ではいっとう美しいと思う。5月。萌え初めの、摘まんで口に入れたいほどの新芽に光が透き、涼しいせせらぎの



中で仰ぎ見ていると、つくづく季節の変遷と到来を嬉しく感じる。

その好天の中、やって来た子供たちは早速川に入った。5月の水は足がビリビリ痛むほどに冷たいが、子供たちは何のその、わあわあ叫びつつ川に飛び込み、学生スタッフをびしょ濡れにした。

それを遠目に、川下の石に座る。子供たちの中にも、川遊びは好きだけど激しいのは怖いとか、ただ何となく周りをうろうろしているとか、色々いる。それで、チューブを流したけいすけやコータローだけでなく、箱メガネを持ったみれいや、手持ち無沙汰な風のクレオがぶらぶらとやって来る。

ひらり、と視界に弧を描いて、ズボンに一匹のカゲロウがとまる。淡い黄色に、繊細な翅、小さく丸い黒色の眼。しばらく、その一点を見つめる。ヤマメやイワナにはご馳走である彼らは、幼虫を食われ、羽化をして食われ、水に落ちて食われる。彼はじっと動かず、さりとしてこちらを見つめ返すようには見えず、その語る声を聞き取ることはできない。

ふと顔を上げれば、光の角度が変わったのだろうか、先ほどは気付かなかった、彼の無数の仲間がきらきらと飛び交っていた。光の粒々。生が美しいのは、光が美しいからなんだ、と思考が飛躍して、顔を戻せばすでにカゲロウはなく、ごうごう、しゃわしゃわと川が鳴った。

放心のところへクレオが戻ってきて、

「まだいたの!？」

と驚き、

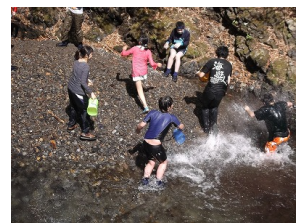
「暇じゃないの？」

と続けて訊いた。暇という概念は、この自然の中にはない。

夜、焚き火を囲む。チェーンソーで*の字に切れ目を入れた丸太は幾何学的に美しく燃え、下部に木を差し込めば長く力強い火となった。子供たちが寝て、大人たち数人であれこれと話をする。何を話したかは覚えていない。いわば無益で無駄な時間だけれど、それだけかけ値なしの時間ともいえる。

じっと見つめていると、火は手に触れられるものに見えてくる。火は水の動きと似ている。それは「お松焼き」を見ているというそう顕著で、荒々しく燃える炎は、落差のある川の流れと酷似する。誰かがまた一つ、薪をくべる。シュラフに包まった頭が、ことんと落ちる。

立ち上がれば、夜空は冴え、もやもやと横たわるのは天の河だ。佐々木のおっちゃんが寝てしまったので名は分らないが、どの星もつぴつぴと光り、ああ、ここにも、と思う。光の粒々。夜気は冷たく、手に持つ缶ビールも冷たく、黙って空を仰ぎ、目を閉じた。



その2「タイ環境教育キャンプ2013」旅行記

森垣 登美子さん

今回のタイ環境学習キャンプの日本からの参加者は3名で8月17日から26日まででした。成田を8月17日のお昼頃HISのチャーター便で出発したのですが、こんなシンプルな飛行機に乗ったことは最近になくまずはバンコクまでの安全飛行を祈りました。

無事バンコクに到着してスリワットさんの出迎えを受けホテルに行く途中夕食をごちそうになりました。スリワットさんはとても真面目な大学教授という印象でした。ごちそうになったタイ料理は今まで食べたことないほどおいしい高級タイ料理でした。この店の客はタイのお金持の客らしく小学生らしき子供たちは各自iPadでそれぞれゲームをしているのか何をしているのかわかりませんでした。日本の子供たちより高級品を持ってという印象を受けました。

大学内のホテルは清潔で不足なく過ごすことが出来ました。翌朝朝食をホテルで済ませているとシナタットさんとラダワンさんが見えて歓迎して下さいました。また通訳をして下さる若林さんと若林さんのタイ人の奥さんも見え、パンダキャンプのシリボンさんの奥さんと息子さんと娘さんもバンでお迎えに来て

下さいました。

私たち一行はシリボンさん家族3人と若林さんご夫妻と合計8人となりパンダキャンプに向かいました。その途中サムチュク百年古市場に寄り、ここで昼食をして市場を見て回りました。食事をした食堂の下川のほとりで緑亀を売っているお婆さんがいましたが、これを買って川に放してあげると功德があると言われています。タイでは亀に限らず生き物はこのような対象になるようです。





バンコクから約3時間ほどで目的地のパンダキャンプに到着しました。そしてパンダキャンプのオーナーのシリポンさんの歓迎を受けました。パンダキャンプはシリポンさんが何年かけて木を植え環境教育をする場所として、また環境にやさしい農業指導をしていきたいという大志を抱きその拠点となる森を今もって建設中です。

コテージ風の建物が点在し宿舎となっています。私が泊まったコテージはトイレと風呂場が共通でその一角にある水がめの水で行水をしなければならないことを知ってちょっとびっくりしました。でも2日目からはなんの抵抗もなく受け入れることが出来ました。昼間の気温の高い時に行水する術を習得しました。

翌日は近所の4つの小学校の生徒が引率の先生とともに40名ほど来てワークショップを行いました。9時から中込ミさんのペットボトルに穴をあけても水がこぼれないマジックから始まり自然界にあるフィボナチ数の事など小学生には少々難しかったかも知れませんが、みんなまじめにワークショップには取り組んでくれました。



午前中の部が終了し子供たちはお昼を頂き午後は中込メさんのアイヌに関するお話を熱心に聞いていました。引率の先生たちにはアイヌが食べていたシト（小麦粉とアワを練って小判形にして茹でたもの）と言う食べ物を中込メさんが作りごちそうしました。

パンダキャンプは夕方は涼しく蚊は殆どいませんでした。若林さんの奥さんは日本語の先生で授業があるのでバンコクにバスで帰られました。このパンダキャンプの中の植物についてシリポンさんが説明しな

がらハーブ系のものは摘んでいろいろ食べました。その中でも巨大な長いものが印象的でした。この長イモは一つの塊が10キロ以上あります。後にこの長イモを麵つゆとマヨネーズで食べましたが、味は本当に長イモでした。



パンダキャンプの前の家が村長さんの家でシリポンさんに案内していただきました。村長さんはネズミ、蛙、コオロギを食料として売るために飼っています。

翌日はいよいよファイカケンにシリポンさんの車とノーイさんの車2台でいきました。このファイカケンは世界自然遺産の動物保護区になっていて、宿舎があります。私たち6人とテナガザルの研究をしているタイの学生が2人だけでした。到着して午後自然観察のためにシリポンさんの運転で山に行きましたが、雨季の為ぬかるみあり、木の橋ありでスリル満点のドライブでした。途中ぬかるみにハマリそうになり行進を諦め車をおいてしばらく歩いてゆきました。

3時間ほどの観察を終え宿舎に戻ったのですが、若林さんの体調が悪くバンライの病院までシリポンさんが連れて行くことになり夕食は私たち3人とカレン族のいつもお世話を下さるノーイさんと4人でした。通訳の若林さんがいませんでそのノーイさんとは身振り手振りの4時間でした。

夕食が終わって宿舎に帰ろうとしているところにシリポンさんが若林さんを連れて戻ってきました。バンライの病院に入院すると思っていた若林さんが戻ったことに驚きました。若林さんはデング熱の可能性があると病院の診察を受けたのですが、その結果は今の段階ではわからないということでまた症状も好転したということで薬をもらって戻られたようです。シリポンさんは家に戻り4輪駆動に車を変え明日のカオバンライ行きに備えて下さったようです。

ファイカケンの朝夕はとても過ごしやすく快適でした。朝は小鳥の声は聞こえるのですが、なかなか姿

をとらえにくかったです。



ここでの食事はバンライから材料すべてを持ち込み賄いさんの女性に料理をしてもらいました。朝食を済ませていよいよカオバンライへ出発です。昨日諦めたぬかるみも今日はすいすい登ってゆきました。でも昨日以上にスリルのあるドライブでした。途中降りては動植物の観察をして繁みの中に入ったりして歩きましたが、最後にはシリポンさんは若林さんを乗せノーイさんと私たち3人を下して車はカオバンライまで行ってしまったのです。このことを知ったのはあとのことですが。ゾウの通り過ぎた足跡？小動物の足跡？いろいろな動物らしき足跡を見ましたが、一つも本体を見ることはありませんでした。私たちのグループしかない森林の中を4人で多少疲れ果てて登ってゆきました。もしカレン族のノーイさんが一緒でなかったらどんなに心細かったでしょうか。途中見たものの中でいろいろ珍しい植物はありました。また、蛍の幼虫がまいまいに覆いかぶさっているのを見たのは幸運でした。その大きさは女性の中指くらい大きさでした。これが蛍の幼虫であるのをはっきり知ったのは旅行を終えてゲンジボタルについて調べているうちに殆ど大きさが違うだけで正に若林さんが後で写真を見ておしゃるように蛍の幼虫のようでした。



7ー8キロ歩いたところでようやくシリポンさんの車が迎えに来てくれました。気温は余り高くはなかったのですが、湿度は高く私たち日本人は疲れ果てていました。車がUターンするとしてもどこでも出来るわけではなくようやく出来る場所を定めてUターンしてカオバンライに向かいました。車で約30分ほどかかりました。この道をさらに歩いていたらどうなったことやらです。

カオバンライも自然保護区の一部で宿舎が有りとても景色のよい場所でした。イギリスからの鳥の研究者も長期間とどまって観察をしていると言っていました。ここでは野生のクジャックを見ました。



若林さんはベンチの上で休息を取っておられ先ほど私たちが見た蛍の幼虫らしき話をするとても残念そうでした。カオバンライの休憩所で宿舎で作って

もらったカウパット(焼飯)と野菜のタイ料理とシリポンさんが採集してきた野草を食べてしばらく思い思いに散策をして、再び下りの悪路をシリポンさんのスリル満点の運転で一気に宿舎まで戻りました。シリポンさんは正にメキシコ流に言えばマッちょでした。

翌日は帰りの道すがらカレン族の村長さんを訪ねました。訪ねた家は村長さん別宅のようです。農作業の為の仮の小屋のようでした。このカレン族の先祖は昨日行ったカオバンライにかつては住んでいたようです。別宅は、はしごで登って2階が居間と食事を作ったり食べたりする場所になっています。柱と雨よけの屋根と床には竹を割って張ってあるだけの小屋です。強い風が吹いたら飛んでしまいそうな家でした。赤ちゃんはハンモックで寝ていました。食事の煮炊きはプロパンガスと木を燃やして燃料としていました。作物としては陸稲、キャッサバ、サトウキビ、かぼちゃ、キュウリ、等ですが、すべて種は自家採取だそうです。かなり広い面積の土地を耕作しているようです。カオバンライから移動した時に持ってこれなかった種は今では耕作していないと言っていました。



女性達は近所の池に今夜の食料の魚釣りに行っていました。餌はこの池で取った小さなエビと買ったような餌をつけていました。

遅いお昼はパンダキャンプに戻って取りました。車2台だったので私だけがノーイさん運転の車に乗りましたが、なかなかタイ語が通じません。タイ語は声調が難しいのです。ノーイさんは私がお腹がすいているだろうと御菓子を下さいました。ノーイさんの家の話を拙いタイ語でいろいろ伺っていると帰る途中ノーイさんの家の前まで案内して下さり、パンダキャンプに戻り遅い昼食を取りました。

この日の午後はカム族の方が3人見えて祭りの話などをしてくれましたが、言葉がカム族の言葉だった

ようで通訳の若林さんも難しかったようです。カム族の77歳の女性が笛を吹いてくれましたが鼻息で吹いていました。このようなことが出来るカム族最後の婦人だったようです。



夕食後は近郊の青年のコンサートが宿舎の一角の集会場であり、中込メさんはギターを借りてデビューの練習です。中込メさんのギターに合わせてデュアン・ペン(満月)をタイ語で皆で何度か歌いました。この日は雨季らしく屋根の外は雨が激しく降っていました。

翌日は午前中カレン族・カム族の集落を車で見学してコーウオン寺に行きました。私以外は何度も来ているので駐車場で皆さんは待っていました。でも寺の中は昨日の雨で水がすっかりたまっていました。

その後昨日のコンサートのメンバーである青年家をたずねました。





彼は環境にやさしい農業を目指し、野菜、タマリンド、文旦を栽培していました。昼間は農業をして日が暮れるとギターを弾いて理想の生活と思いました。タイは国土の割に人口が少ないので土地には余裕があるようです。

シリポンさんの自宅に寄りジャックフルーツをもぎ取り、若林さんがバンコクに帰るのでバス停まで見送りに行きました。送った後パンダキャンプに戻りノーイさんが包丁に食用油を塗ってジャックフルーツ割りましたがまだ十分には実っていないようで味は今一でした。

午後はボタンさん(シリポンさんの奥さん)の案内で少数民族の織物工房を見学に行き栽培した綿の実からどのように民族衣装が織られるのかを見学し、その後バンライの町の市場でフルーツの女王と言われるマンゴスチンを買いました。

午後5時に予約をしてあったバンライ病院のタイマッサージに行き3時間の長いマッサージを受けました。マッサージ師さんも大変ですが、受ける身もかなりの根性が必要と思いました。

パンダキャンプに戻って夕食をしたのは8時半過ぎでしたからシリポンさんはすでにビールを飲んで出来上がっていました。娘さんにビールは取り上げられていました。

市場で買ったマンゴスチンがようやく食べれると思いきや楽しみにしていたのですが、なんと私たちがタイマッサージに行っている間に賄いの女性達が食べてしまったようでした。

翌朝近所のカレン族の方が竹細工のデモンストレーションをしてくださいました。その後朝9時過ぎにシリポンさん家族とバンでバンコクに向かいました。大学内のホテルではラダワンさんが昼食をするために待っていて下さり、甲南大学に来たことのあるラダワンさんの御弟子さん2人と6人でセントラルのタイレストランで昼食をごちそうになりました。

午後はチナタッタさんの案内で大きな市場に案内

していただき買い物をしてタイ料理の夕食をごちそうになりました。

最後の日の午前中は大学内の盆栽センターでワークショップを行いました。課題は中込ミさんによる表面張力を生かした手品と自然界にあるフィボナッチ数の解説と中込メさんによるビーズとペットボトルを使って玉ねぎ細胞を見る顕微鏡の作り方です。出席された方は環境学習を教えている先生・職員の方約30名ほどでした。皆さん熱心に聞いておられました。



午前中でワークショップは終了しホテルをチェックアウトしてホテルの食堂でラジャバット大学の先生方と昼食をしました。午後はチナタッタさんの案内で市場にドリアンを買いに行き、帰りにはチナタッタさんの邸宅によりタイ人のお金持ちの生活を垣間見ることが出来ました。夕食はMKでタイスキを食べましたが、余り感心しませんでした。ホテルに戻り荷物を整えてスリワットさんご夫妻に空港まで送っていただきました。飛行機は深夜に出発だったので成田に着いたのは翌朝9時過ぎでした。

旅を終えての感想は私にとっては100%満足する旅行でした。しかし環境教育キャンプとワークショップとの関係がわかりにくかったです。食事はすべてタイ料理でしたが、品数も多く変化に富み味も辛さ控えめで毎食美味しい食事でした。今回の私の参加目的は多少覚えたタイ語を使うこととタイにおける農業の実態を知りたかったのです。思いがけずシリポンさんという環境にやさしい農業を目指す指導者に会えたことはとても有意義でした。これからもますますタイ語を勉強する励みとなりました。私は気楽で楽しい10日間でしたが、御二人の中込さんにはご苦労があったと思います。旅行中はいろいろお気遣いをして戴き感謝しております。
(森垣登美子記)

■ 活動案内 ■

その1 「タイ環境学習キャンプ」

8.9~8.18(9泊10日)

今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の「パンダキャンプ」を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカケン野生動物保護区は世界遺産であり、観光客はもとより、地元の方でも許可がなければ入れません。貴重な動物を見て、密猟者から保護区を守るレンジャーからの話あります。



少数民族のカレン族の集落訪問、伝統工芸品の製作など体験内容を充実させています。恒例の現地教員とのワークショップも好評となっています。高層ビルの立ち並ぶバンコクと少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか？通訳、ガイドも同行し、

現地のラジャバト大学との連携もありますので安心してご参加くださいませ！！



日 程：8/9（土）～18日（月）

対 象：高校生～一般（中学生以下は要相談）

参加費：会員 150,000 円 非会員 160,000 円

※航空券と現地での費用が含まれています。

申込み：6月20日（金）締め切りですが、航空券の手配がありますので、まずは事務局までご連絡ください。また、パスポートを持っていない方は、急ぎ用意する必要があります。出発前に事前に参加者ミーティングも行いますのでご安心を！

日時	活動内容	備考
8月9日(土)	成田→バンコク	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
8月10日(日)	バンコク→バンライ	パンダキャンプ泊
	・サム・チュク古市場 ・歓迎会	
8月11日(月)	バンライ→ファイカケン野生動物保護区	ファイカケン野生動物保護区ゲストハウス泊
	・野生動物観察 ・バードウォッチング	
8月12日(火)	バンライ→ファイカケン野生動物保護区	ファイカケン野生動物保護区ゲストハウス泊
	・野生動物観察 ・バードウォッチング	・レンジャーとの交流
8月13日(水)	ファイカケン野生動物保護区→バンライ	パンダキャンプ泊
	・バードウォッチング ・少数民族の学校訪問	・カレン、ラオ族の集落訪問(竹工芸品制作体験)
8月14日(木)	バンライ(パンダキャンプ)	パンダキャンプ泊
	・ティーチャーワークショップ ・タイマッサージ	
8月15日(金)	バンライ→バンコク	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
	・ラジャバト大学環境施設見学	
8月16日(土)	バンライ→バンコク	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
	・ラジャバト大学交流会 ・バンコク市内観光	
8月17日(日)	バンコク市内	グランドビューホテル泊(ラジャバト大学内)
8月18日(月)	バンコク→成田	

※日程表は例年のものです。プログラムは毎年変化していますので二度目の参加でも飽きませんよ～。
活動内容については、現地と調整中です。早く知りたい！という方は、事務局までお問合せください～。

その2 冒険学校「こすげ冒険学校」

7.31~8.6(6泊7日)

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす6泊7日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう!! 寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう!! 一緒に山の中や村の暮らしを探検してみよう!! 7日間遊び続けて、みんなで楽しいキャンプをしましょう!!



日程：7月31日(木)~8月6日(水) 6泊7日

場所：小菅村のいつものキャンプ場

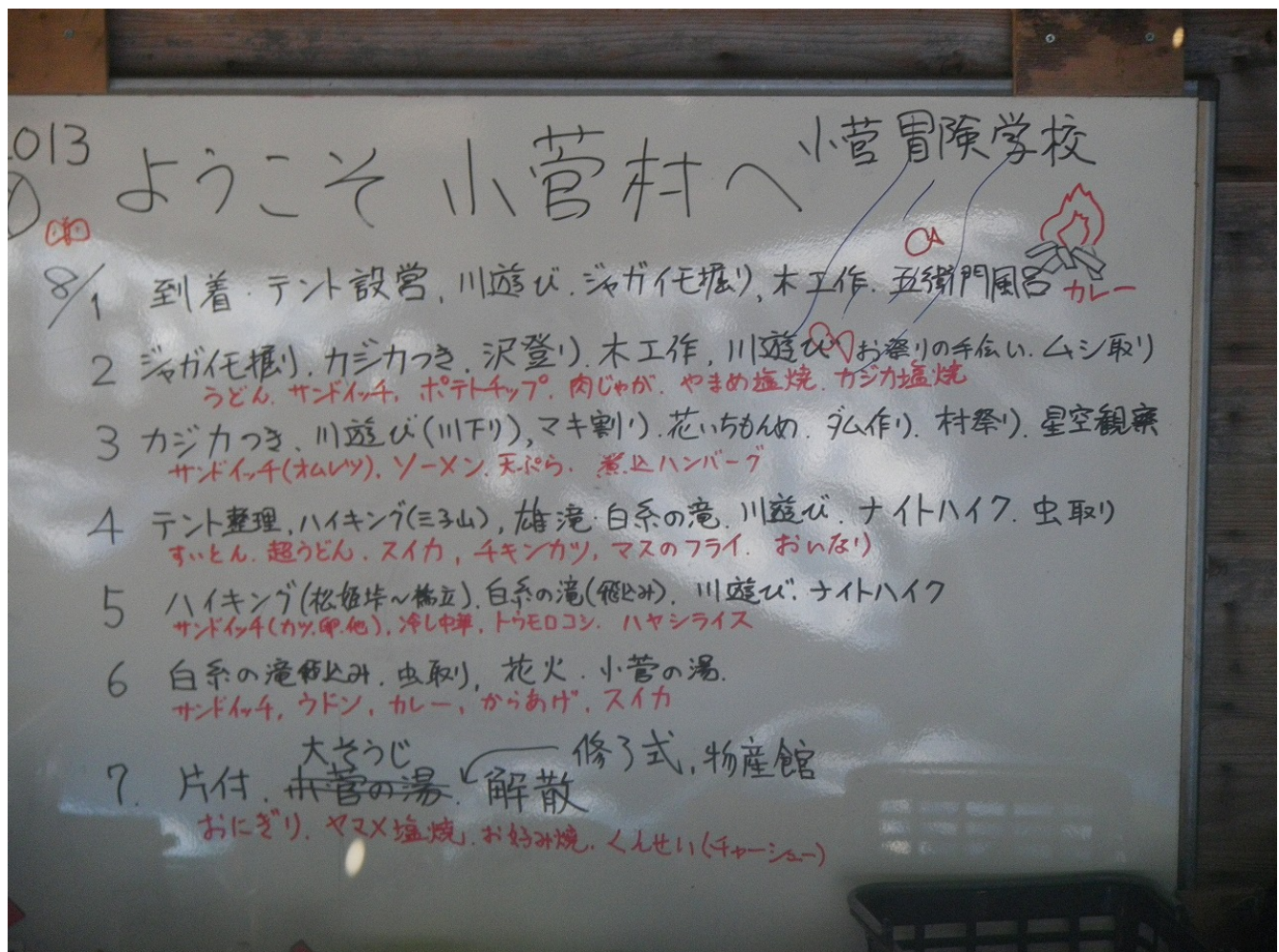
宿泊：テント・ログハウス・野宿などで寝袋



対象：小学校3年生~中学校3年生 20名

参加費：会員：¥25,000 非会員：¥27,000

申込み：7月11日(金)まで、先着順です。



昨年のプログラムです!! 今年はどうなプログラムになるか、楽しみです!!

その3 冒険学校「やまめキャンプ」「いwanaキャンプ」 8.9~8.11

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」1泊2日のキャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまと一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか？ 一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休めます。「自然」という名の遊び場は最高ですよ。今年も「やまめキャンプ」「いwanaキャンプ」と連続して行います。連続で参加して2泊3日のキャンプにすることも可能ですよ〜！！

「やまめキャンプ」：8/9~10 1泊2日 「いwanaキャンプ」：8/10~11 1泊2日

※連続での2泊3日OKでゆっくり過ごすこともできます！

場 所：小菅村のいつものキャンプ場

宿 泊：テント・ログハウス・野宿など

対 象：小学校3年生以上は子どものみの参加可能。20名

申込み：7月11日（金）まで、先着順です。

参加費：1泊2日親子での参加：20,000円（会員）

※ 連続参加、子どものみの参加は割引します。



川遊びと五右衛門風呂！！



昨年は「手づかみ漁」もやりました！

参加の申込は事務局まで、E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）をご記入の上、お気軽にお申しください。お待ちしております〜♪

その4 のびと講座「源流での登山道整備」 7.26~28(2泊3日)

甲武信ヶ岳は、山梨県・埼玉県・長野県の分水嶺となっており、荒川・千曲川・笛吹川の3つの河川の水源地です。ここから流れる水を飲み水、生活用水として利用しています。私たちの生活にかかわりの深い上流で、本当に美味しい源流の水を味わいながら、登山道での草刈り、整備を行い、一緒に汗をかきませんか？

甲武信小屋のご主人・山中徳治さんのお話を交えて、源流と流域のつながりを身をもって感じる講座です。

体力があまりないのでちょっと自信が・・・という方でも、自分のペースで活動できますよ。。



やることはいっぱいあります。

日 程：7月26日（土）~28（月）2泊3日

場 所：甲武信ヶ岳と甲武信小屋の登山道

宿 泊：甲武信小屋（山小屋に泊まります！）

参加費：会員：¥15,000程（宿泊費・交通費・保険代など）

対 象：高校生~一般15名（中学生以下は要相談）

申込み：7月11日（金）まで、先着順です。

その9 「INCH 祭り」～「INCH ライズ 2014」と「のびと講座きのこキャンプ」で楽しくやっちゃいましょう！！ 10.4～5(1泊か日帰り)

春に行く「野草の天ぶら会とお茶つみの会」と同じく、会員の皆さまが気軽に参加できる秋の一大イベント「INCH 祭り」を開催します！ログハウスのあるキャンプ場で、昨年開催した「INCH ライズ」と「のびと講座 きのこキャンプ」を開催し、秋の味覚を堪能しながら楽しい時を過ごしましょう！



本会代表理事中込卓男のバンド「チョークス」。彼の職場の友人、山田義守さんのバンド「座」(アコースティックハーモニーフォーク)、キャンプで村長を務める本会理事の鈴木英雄によるワンマンショー、廣瀬屋旅館の若旦那、小菅村民による笛の共演、加藤翔くんのギター、よいしょバンドなどなど、まだ調整中ですが、多くの皆さまにご参加いただく予定です。



普段会えないみなさま、キャンプでしか会えないみなさま、ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！

音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪

きのこに興味のある方は、一緒に山に入ってきのこを採りに行きましょう！！



← 野外でバーも開催！

■日程: 10月4日(土)～5日(日) 日帰りもOKです。

第1部 13:00 頃から開演「まじめなアコースティックコンサート」

※一流のバーテンダーにも来てもらう予定です。お楽しみに！！

■会場: 山梨県小菅村いつものキャンプ場

■参加費: ※非会員の方はこの機会にぜひ会員に！

ライブのみの参加 会員 1,000 円 (中学生以下無料)

きのこ採りをされる方 会員 3,000 円

泊まりの方 1泊 1,500 円(ログハウスかテントで寝袋)

■交通機関

※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願いします。バスの時間などをご相談ください。

■お申し込み: ライブの当日参加はOKですが、きのこ採りに参加される方は保険に加入しますので、9月29日(月)までにお申し込みください。



『INCH の楽しい仲間たち』 vol.6

今年は、「冒険学校みなかみ雪中キャンプ」は中止になりましたが、みなかみで新たな～久しぶりの縁がありましたので、ご紹介します！！（事務局）。

利根川源流の限界集落、群馬県みなかみ町藤原の北山郁人と申します。

みなさん飲水思源という言葉をご存じですか。水を飲む時はその源に思いをはせ、感謝しましょうという意味です。私のミッションは、この飲水思源を合言葉に利根川の下流域の人々と協力し、この藤原の里を世界中から人が集まる桃源郷とすることです。まったくのよそ者である北山家が家族 4 人で藤原に移住したのは 5 年前の 2008 年、それまで住んでいたのは東京都奥多摩町。水源林を保全するための林業に従事したり、田舎暮らしが体験できる自然学校を地域の人たちと運営していた。国立公園を管理するレンジャーの仕事にも就いた。その頃、自然文化誌研究会さんのお手伝いも少しさせていただいたことがある。

しかし、本当に自分のやりたいこと、人生をかけて挑戦したいこと、それができる場所を探そうと決意した。日本中の山村を歩いて回り、そして利根川を遡りたどり着いたのが藤原であった。みなかみ町の半分の面積である 390 平方キロにわずか人口 450 人、かろうじて学校も残っている。小学生 17 名、中学生 6 名、保育園生 2 名、巨大ダム 4 つ。スキー場 3 つ、ゴルフ場 1 つ、大規模ホテル旅館 4 軒、ペンション民宿 40 数軒。尾瀬にも近い。首都圏からのアクセスの良さ。そしてなにより、その 3000 万人の命の水としてのつながり。こんな条件の良すぎる場所はなかった。実際適当な仕事なら結構ある。空き家もたくさんある。

なのに、人は減り続ける。奥州藤原氏の末裔が隠れ住んだといわれ、800 年以上の歴史ある集落が消えようとしている。北山家の移住の第一条件は、古民家に住む事であった。地元の人たちにとっては、ぼろくて、おカネをかける価値のないナンバーワンである。これを自ら修復し、おカネをかけずに快適に暮らせるようにするところから始めた。しかし、築 100 年以上の古民家とあって、床下がすべて腐っていた。地元のスギ材を加工し、床を張り直した。地元の方は、よくあんなぼろくて寒いくず屋にすむねーというが、ちょっと工夫してやれば、快適な住みかとなるのである。移住のきっかけとなったもう一つの活動が、茅場の再生活動である。12 年まえから、森林塾青水というボランティア団体が、40 年間放置されていたかつての入会地であるススキ草原の再生活動を行っている。春には野焼きをおこない、秋には茅刈りをおこなう。

我が家の古民家の最終目標は、この茅で茅葺屋根に戻すことです。現在、この茅場で刈り取った茅は、関東一円の文化財の屋根材として、専門業者に一束 100 円で買い取ってもらっている。また、地元の方に講師となってもらい学校団体の体験学習の場としても活用している。

本気で地域を元気にするために、今年度から藤原むらづくり協議会を立ち上げ、農林水産省からの交付金もいただけることになった。現在、専従スタッフを募集中です。

日本の文化の源流にふれ、学び、本物を体験する。飲水思源という合言葉で利根川の下流域の人々と交流し、世界中から日本の原風景をもとめて藤原へ人々が訪れる、そんな桃源郷を目指します。

■首都圏の水源地の村と一緒に守る人材募集！

●活動・研修の内容：

- ・地域住民の求めているものやこの地域をどうしたいのか、などのヒアリング調査。
- ・休耕地、農産物の生産状況の調査。
- ・域外の若者から見て魅力的な地域資源の発掘。
- ・田舎暮らしの体験プログラムの開発。
- ・地域の人と一緒にイベントの運営。
- ・ブログ、Twitter、Facebook 等による地域情報の発信。

●募集対象 ●募集人数 1 名

- ・お年寄りとのコミュニケーションが好きな方。
- ・地域住民と協力しながら一緒に活動できる方

●主な活動場所：みなかみ町藤原地区にある直売所 勤務時間 8時30分 ～ 17時30分(8時間勤務)

●給与：月額160,000円(日額8,000円×20日) 社会保険あり

●その他特記事項：住居は、有料ですが、町営住宅、1軒屋、下宿等も可能です。

●希望者は、必ず現地を見に来てください。この場所で生活できるかどうか、自分の目で確認願います。現地見希望の方は、事前に下記へメールでご連絡の上、お越しください。下見のための交通費等は支給しません。

■お問い合わせ先 みなかみ町藤原むらおこし協議会（NPO 法人奥利根水源地域ネットワーク）担当：北山 千 379-1721 群馬県利根郡みなかみ町藤原 3862-1 TEL：090-4062-4040 メール ikuto@aq.wakwak.com

詳細はコチラ http://www.keieiken.co.jp/inaka/region/pdf/10_minakami.pdf

北山 郁人(きたやま いくと) 1974 年 愛知県名古屋市に生まれ。1998 年 日本大学芸術学部美術学科彫刻専攻 卒業。現職：一般社団法人みなかみ町体験旅行 常務理事。みなかみの農家民宿受け入れ態勢作り、自然体験プログラムの企画運営、教育旅行のコーディネートを行っている。その他所属：NPO 法人奥利根水源地域ネットワーク、森林塾青水、NPO 法人全国源流ネットワーク

○ 今後の活動予定のお知らせ (2014 年夏)

- 7/26~28 のびと講座『源流での登山道整備』@甲武信小屋周辺 2泊3日
 7/31~8/6 冒険学校『こすげ冒険学校』@小菅村 6泊7日
 8/9~10 冒険学校『やまめキャンプ』@小菅村 1泊2日
 8/10~11 冒険学校『いwanaキャンプ』@小菅村 1泊2日
 8/9~18 のびと講座『タイ環境学習キャンプ』@タイ王国 9泊10日
 9/13~15 『INCH お楽しみ企画』…やってみる予定。詳細はホームページにて！
 10/4~5 『INCH まつり』~『INCH ライブ 2013』と『のびと講座きのこキャンプ』@小菅村 1泊2日
- 『ログビルダー養成講座』は、毎月2回の週末を中心に活動しています。事務局までご相談ください。

やまめキャンプ、いwanaキャンプの連続参加で2泊3日可能です！！

○ 事務局より

- 『先日、お米で有名な新潟県の南魚沼へ行ってきました。NPO 法人エコプラスの拠点フィールドです。1泊2日、参加者しました。内容がもちろん良かったのですが、楽しかったし、刺激になりました。この経験を小菅に持ち帰って、どう考えるか？と思ったものの、3日ぐらいで忘れ始めていて・・・クロ』
- 『最近では忘れかけていた感覚がむくむくと溢れてきます。そう、ライブ行きたい夏フェス行きたい！まあ、キャンプと家作り優先なんですけど。冒険学校中に茨城県ひたちなか市の某フェスに日帰りで行ったこともあったなあ。と言うわけで、誰か誘ってください。私は元気です。 はるこ』

○ 事務局の麗しき日々 (というか、何となく近況報告)

- ・ログの池田さん、善さんの農作業で麦アレルギーとプロで苦しむ。
- ・キャンプ場の仮設作業場が雪で潰れて撤去して、広くなったもよう。
- ・既にネタがなく、無駄に行を埋めているもよう。
- ・そういえば翔くんが小菅に、バイクを乗るためだけに来るもよう。
- ・雫は相変わらずメンタルが弱いもよう。
- ・ふと気付く。大ちゃんが男らしくなったもよう。
- ・ちあきちゃんがU字工事のサインをもらって家宝にしたもよう。
- ・木俣美樹男教授、退官おめでとうございます！！これからもっ！！

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者のびと研修会』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。



ナマステ 116 号

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員(個人・団体)：10,000 円

家族会員（一家族）：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

小菅村特別会員：1 口 1,000 円から

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2014 年 5 月 30 日

<編 集>自然文化誌研究会 事務局

<発 行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 4115

TEL：0428-87-0165

携 帯：090-3334-5328（黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P：http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

次回「ナマステ 117 号」は 9 月下旬の発行を予定しています。お楽しみに！！